

令和4年度 第2回がんの集学的治療専門部会(Web会議)

2022/11/10 18時～18時45分@四国がんセンター on Web

議事録

<議題>

1. 治験 HP 公開について

四国がんセンター 仁科

がん遺伝子パネルの出口戦略として保険診療、治験、患者申し出療養などの選択肢があるが、四国がんセンターでは数々の治験を実施しており関連施設から患者さんを受け入れる体制を整えている。しかしながらその情報の提供に関しては、以前より、メーカーとの契約等の理由などから懸案事項になっていた。今回、治験情報の公開について、ホームページをブラッシュアップしたので紹介する。がん遺伝子パネルの結果で参加できる治験が登録中かなどの情報について閲覧できるようになっているので、治験を希望される患者さんがいらっしゃる場合には参考にして頂きたい。情報はリアルタイムにアップデートしていきます。

2. 薬業連携「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について

四国がんセンター 亀岡

保険薬局を対象に特定薬剤管理指導加算 2 の現状調査をおこない結果をまとめたので、今回は、医療機関の連携充実加算について、Google フォームを用いてアンケート調査をおこなう予定で準備をすすめている。既に加算を算定している施設、まだ算定をおこなっていない施設、それぞれの問題点を抽出できればと考えている。2023年の1月以降に、メールにてアンケートの URL を配信して調査を実施したいので、その際にはご協力をお願いします。

3. 曝露体験型セミナーの御礼、スタッフ尿中サイクロフォスファミド曝露のパイロット試験について

四国がんセンター 青儀、橋田、小倉

曝露に対する医療施設での教育は、重要であるが、異動によるスタッフの入れ替えなどの理由により持続しての教育の実施は難しいところであった。この度、大阪のがんチーム医療研究会の先生方とタイアップして四国がんセンターからも協力させて頂き、e-learning システムを作成した。国立看護大学の飯野先生監修して頂き、総論、調整領域、投与領域および患者ケア、曝露対策の教育、といったコンテンツで 15～20 分程度の内容であり、最後に簡単な Question がある。日本がんチーム医療研究会のホームページから会員またはゲストにてログインできるので、是非ご利用頂きたい。

患者さんと家族に対する曝露情報の公開についても重要である。2 年程前に日本ベクソン・ディッキンソン(株)社と共同にて着手している。曝露対策を講じる、安全性を確保するための情報について、必要以上に怖がらせることにならないよう易しく記載している。2022 年度の診療報酬改定において外来化学療法加算が変更し、患者および家族に対し予防方法等について十分な説明(指導)をおこなうことが含まれた。冊子は BD 社に依頼すると入手でき、将来的にはホームページからダウンロードできる予定である。安全で的確な情報提供にご活用頂きたい。
＜愛媛大学 薬師神先生＞

医療者とは異なる、施設の清掃担当の方等は入れ替わりがありどんどん新しい方が担当されるので、そのような視点でも考えて頂けるとよい。

4. 「在宅がん患者の irAE 管理ツール」の運用について

愛媛大学 薬師神先生

以前から参加をお願いしている「在宅がん患者の irAE 管理ツール」の利用について、再度紹介したい。インターネットを使って患者さんのスマートフォンにアプリを入れ、施設の PC に患者さんの訴えを集計するというシステムとなっている。

＜四国がんセンター青儀＞

四国がんセンターでも、準備に少し時間を要したが、もう少しで導入できそうである。連携協議会参加施設でも使ってもらいたい。

5. 放射線治療 FAX 紹介簡易版について

四国がんセンター 濱本(青儀)

放射線治療 FAX 紹介簡易版の原案が完成し、四国がんセンターでの試用期間中である。よりブラッシュアップをおこない、連携協議会の皆様にご提案したい。

6. がん薬物療法多職種チーム研修について

四国がんセンター 青儀、橋田、小倉、福島

国がんの伝達講習について、7 月 30 日(土)に、県内 4 施設(1 施設欠席のため 3 施設)の医師・看護師・薬剤師・MSW がチームとなり、研修を実施した。大変熱心に討議していただき、実りの多い研修となった。皆様に御礼申し上げます。チーム医療を構築してよりきめ細かい外来化学療法の運用をおこなう上での問題点や改善点について、今後フォローアップ研修を予定し、研修後の各施設での取り組みについて共有するなど更なるブラッシュアップをおこなったうえで、次年度の研修を計画する。チームを作って頂ければどちらの施設でも参加できるので、ご検討をお願いします。

7. がんサバイバーシップ研究について

四国がんセンター 青儀

がん治療後の患者さんの支援については様々なテーマがあるが、ケアモデルに関する概念定着や実践の展開は十分とはいえない。連携協議会各施設にお送りしている書籍で、米国の Handbook of cancer survivorship を日本サポーターケア学会(JASCC)のがんサバイバーシップ部会が翻訳した教科書「がんサバイバーシップ学」については、是非ご活用頂きたい。また、日本癌治療学会とファイザーのチーム医療に関する助成で、e-ラーニングおよび各地域でのリソースを活用したサバイバーシップのシステムの構築についての研究が開始している。2022 年は e-ラーニングを作成しておりそれを使用するユーザーの調査、2023 年-2024 年に地方研修プログラムをつくり評価して、運営マニュアルを作成する予定である。地方研修プログラムの第 1 回目を是非愛媛県で開催したいという要望を出しているため、実施の際にはご協力をお願いします。

8. その他

- ・愛媛大学薬師神先生より、中四国における肉腫の患者さんについて癌治療学会で発表した内容について、紹介して頂いた。
- ・今後も引き続き、抗がん剤曝露調査、スタッフの尿中エンドキサン濃度の調査、などの課題について予定している。